

公害対策・まちづくり

第8回道路連絡会が開かれました

弁護士 原 希世巳

5月19日、南部労政会館で第8回道路連絡会が開催されました。13時から18時過ぎまで白熱の議論でした。

まずは「自転車走行空間の整備」から。東京都が「自転車推奨ルート」を発表してから1年以上が経過しましたが、その進捗状況を聞いても「区の状態によってばらつきがある」「具体的なことは言えない」とあいまいな答弁に終始。「この春、区市と協議した建設事務所がいくつかあるが」と水を向けても、「東京都が関与したものではない」とまるで他人事。怒りを買いました。区市とのパイプがあるところはそちらからもプッシュをご検討下さい。

「激甚交差点対策」、上馬交差点で公害対策のためのシミュレーションを発注したとのことでした。まだまだ先は長いのですが、和解から9年でやっと半歩前進です。

「地域の各論」では、文京、足立、葛飾、中野杉並などの患者さんが、自転車レーンの設置、緑化について具体的な要求の発言がありました。いずれもまともな回答はなく、次回には更につめた要求を準備していきたいところです。

中野杉並と江東墨田については補充要請書を出していたのですが、先方の要望もあり、次回に持ち越しとなりました。

「道路緑化」については、プラタナスは成長が早く、年2回剪定しなくてはならないから、2、3年に1回ですむカツラ（国道254・東池袋）やハナミズキ（台東区・墨田区など）に転換する動きが目立ちます。経費節減というわけですが、カツラもハナミズキも落葉樹です。原則として常緑樹を植栽していくという我々との約束はどこへ行ってしまったのでしょうか。

このような問題も含めて、東京都・公園緑地部との交渉を今セッティングしています。7月下旬で調整していますので確定したらまたお知らせします。

「八潮団地の常時観測局設置」問題が今回の連絡会の最大の争点となりました。我々の要求により、2013年度に関東地整は団地内で四季測定を行いました。N₂O₂の98%値は0.052ppm、これは平成26年度でいうと松原橋、上馬、大和町、北品川に次いでワースト5位。まさに団地住民は激甚交差点並の汚染の中で日夜生活せざるを得ない大変な状況におかれていることが明らかになりました。

私たちはせめて常時測定局を団地内に設置してほしいと要求していますが、関東地整は湾岸八潮測定局と関連しているから必要ないと言い続けています。しかし測定局データより低い値で関連しているならまだしも、八潮団地は測定局データよりも相当に高い値で関連しているのです。これでは団地住民は安心できません。

私は、公害総行動での国交省交渉でもこの点を訴えて、本省として関東地整をしっかり指導するよう求めておきました。

各区で実績をあげる自転車ネットワークづくり

事務局 大越 稔 秋

「クルマから自転車・公共交通へ転換」は、東京大気裁判和解協定の柱の一つです。この間、自転車ネットワークづくりを国・東京都に求めてきましたが、自転車ネットワークづくりの主体は自治体（区・市）です。この間患者会支部・地域あおぞら連絡会は、都内14区とねばり強く区道緑化、自転車走行空間整備と自転車ネットワーク計画作成と整備を要請してきました。その結果、14区・6市が自転車ネットワーク計画作成・整備又は作成検討中という大きな成果をあげています。江戸川では、葛西地域を中心に自転車網を整備し、全区域のネット計画を今年度中に作成する。同様に目黒、足立、板橋も新計画を作成との約束をしました。葛飾、墨田、文京なども現在前向きに検討しています。

江東区は、本年3月に計画策定をし、2020年までに103路線、150km（区道の50%）を駅周辺を優先に整備するとしています。東京は、一つの区で欧米自転車先進主要都市の規模があります。1区、1市から始めて東京全域の自転車ネットワークを完成させ、青空を取り戻し、世界の自転車先進国の仲間入りを目指そうと全区・市への要請行動を強めています。